

20073

最高のチーム医療を目指して

【はじめに】Interventional Radiology(以下 IVR)は日々進歩し続けている。そして医師・看護師・放射線技師・臨床工学技士の四位が協力しチームワークを発揮する事は重要である。しかし、手技は高度化し多種多様である中で、互いに求める事、求められる事が多くなっていることも事実である。よって、これらについて四職種と話し合い今後の課題について報告する。【方法】現状のチームワークをどのように感じており、理想とするチームワーク像をどうとらえるのか。医師・看護師・放射線技師・臨床工学技士の四職種に聞き取り調査を実施した。【結果】心臓カテーテル検査・治療では、1件に対し医師2名・看護師1名・放射線技師1名・臨床工学技士1名の計5名のチームで行っている。しかし、夜勤帯や祝日では臨床工学技士は不在、また放射線技師は当直技師が検査に入る為不慣れな場合もある。看護師は専属ではなく8エリアをローテーションしている為専門知識が低いといった背景がある。この状況下でまず四職種が認識している事は、医療事故を起こさないが大前提であった。その為の工夫は四職種が共通し続ける必要があると考えていることもわかった。また、仕事の効率化は患者の負担を軽減する為に、コミュニケーションが重要であるも、捉え方で深く難しいとの結果がでた。【結論】四職種で共通認識・仕事の効率化・チームワーク・団結力・連帯感をもって臨む事で、医療安全だけでなく職種ごとの目標が見え明確となった。これは、見える化されジェネラリストからエキスパートへの変化への一歩となった。